

大地が復興しなけば、人は復興しない。



あの震災から、もうすぐ2年。

陸前高田市には、悲しみを乗り越え、冬の寒さにも負けず、未来を信じて土を掘り起こし続けている人達があります。

被災地全体では約40%が今年度中に営農を再開できると言われていますが、写真の陸前高田市小友町では、ほぼゼロ。

100haあった水田は津波によって破壊され、塩水につかりました。除塩、用水路づくり、地盤沈下対策など、さまざまな大規模工事が必要なため、黄金色の稲穂が実るのに、何年かかるのか、めどが立っていません。

しかし、荒れ地にぼつりぼつりとキャベツ畑が見えはじめました。水田を失いながらも、キャベツの栽培をはじめた村上さんはこう言います。

「心が前向きにならねば、復興なんて、できねえさ」

生きるために、自分の力で何かをつくる。

被災地には、作物を育てるノウハウと、強い気持ちを持ちつづけている農家がたくさんいます。

しかし、もしも日本がTPPに参加することになったとしたら。被災した農家は営農を再開するでしょうか。

将来に、黄金色に実る大地を残すことができるでしょうか。

<http://www.zenchu-ja.or.jp/>



大地がくれる絆を、もっと。



JAグループ